



Little Diamonds

JUNIOR YOUTH

第21回日本クラブユース(U-15)選手権3位! 決勝へ、わずかに届かず



全国3位の成績を収めた浦和レッズジュニアユース



後半10分、矢島倫太郎がヘディングでゴールを挙げ1点差に迫る

ムードメーカーの池西希。矢島のゴールをアシストした



3位の表彰を受ける、(左から)長谷川凌、加瀬光、石沢哲也、菅本啓太



後半途中出場の原口元気。左ヒザの痛みをこらえて何度もチャンスを作った

8月11日から福島県のJヴィレッジで行われていた第21回日本クラブユース(U-15)選手権で浦和レッズジュニアユースは、準決勝で清水エスパルスジュニアユースに敗れ、3位に入賞した。

12日からの予選リーグは2勝1敗。徳島、名古屋とJリーグの下部組織に連勝し、決勝トーナメント進出を決めてから対戦した奈良の高田FCに0-4で大敗するショックもあったが、決勝トーナメントへの影響はなかった。1回戦のサンフレッチェ広島には先制するも後半追いつかれる展開、2回戦の京都パープルサンガには超守備的な戦術を取られたが、まったく動じず勝ちを収めた。

19日の準決勝は、前半2点を奪われる苦しい展開となったが、後半、猛反撃で同点にする粘りを見せた。しかし優勢の中でも勝ち越し点が奪えず、逆に延長で2点を失って決勝進出はならなかった。

優勝は横浜F・マリノスジュニアユース追浜。大会優秀選手に、レッズジュニアユースからMF矢島倫太郎、MF原口元気が選ばれた。

後半20分、同点ゴールを挙げた利根川良大



試合結果

グループリーグ

- 4-2 徳島ジュニアユース
G: 利根川、石沢、菅本、矢島
- 1-0 名古屋U15
G: 原口
- 0-4 高田FC(奈良県)

1回戦

- 2-1 広島ジュニアユース
G: 加瀬、菅本

2回戦

- 2-0 京都U-15
G: 石沢、菅本

準決勝

- 0-2
- 2-0
- 2延長4 清水ジュニアユース
0-0
- 0-2
G: 矢島、利根川

後半、怒涛の反撃。勝利まであと一歩

清水の守りのうまさ、ラストパスがうまく通らず得点が取れないまま19分と28分に失点。相手の前半のシュートはこの2本のみだっただけに、悔やまれる。反撃をあせるレッズは縦に急ぎすぎ、前線の選手にボールがうまく渡らないなど、消化不良の前半だった。

後半は落ち着いてボールをつなぎ、サイドからの攻めが効果を発揮する。10分、左スローインから

池西のクロスに飛び込んだ矢島がヘッドで叩き込んでまず1点。20分にはその矢島の右クロスに利根川が頭で合わせ同点。完全にリズムをつかんだ。21分に交代出場した原口は痛む左ヒザを抱えながら得意のドリブルでチャンスを作り、自らシュートも放つ。しかし多くの好機に決められないまま延長に入り、前半7分、カウンターから3点目を奪われ、さらに延長後半8分、4点目を浴びる。再びのピハインドにもあきらめず戦ったレッズだったが、はね返せなかった。(写真は準決勝から)

第21回クラブユース(U-15)選手権3位

グループリーグ(8/12~14)

予選突破の後、高田FCに大敗

徳島、名古屋に勝って予選突破を決め、緩みが出たか、高田FCには0-4。開始早々にPKで1点を失うと、立て続けに2点目、3点目を奪われる厳しい展開になった。高い個人技でドリブル中心に攻める高田に対し主導権を取れず、前半の終了近くにも4点目を入れられ、思わぬ大敗となった。



後半から出場した高瀬優季。ゴール近くで競り合う

渋谷将太も後半途中から出場。流れを変えようと懸命に追いかけたが



2回戦・京都戦(8/17)

超守備的な相手にもじれず

京都はボールをほとんど4人のDFで回し、ときおり前線に入れても無理をせずまた後ろに戻すという戦術。レッズもロングボールを警戒してラインを上げられず、攻撃が単発だった。後半、ボールを奪う位置を高めたレッズは、相手陣内で得たFKを大里が直接シュート。これがDFの手に当たってPKを得、6分に石沢が慎重に決めた。その2分後、磯部のチェイシングから右CKを奪い、これを葦本がヘッドで決めて2点目を挙げた。レッズは、相手の徹底した守備的戦術にもじれずに自分たちのペースを崩さなかった。



ときおり入れて来る京都のロングボールをはね返す長谷川凌



PKを決めた石沢哲也(左)、2点目を挙げた葦本啓太もホッとした表情



試合終了の瞬間、仲間と手を合わせる大里康朗



サイドのスペースを突いてくる京都に落ち着いて対応する加瀬光

1回戦・広島戦(8/16)

後半、同点PKにも落ち着き失わず

優勝候補の呼び声もあったサンフレッチェ広島を相手に、レッズは高田FC戦のショックもなく、落ち着いた試合運びを見せる。前半29分、左CKから加瀬のヘディングシュートで先制。その後もペースを握り続けるが、後半25分、接触プレーがPKに取られ同点にされる。嫌な流れになりかけるのを踏ん張り、延長前半3分、森田の右クロスをファーサイドの葦本が頭で叩き込み、決勝点とした。



ベンチ脇でアップしながら戦況を見つめるリザーブの選手たち



失点をPKの1点に抑えた原豊寛

延長前半3分、ゴールを挙げた葦本啓太が雄たけびを上げる



岡本拓也は落ち着いた守備で勝利に貢献した



決勝点をアシストした森田健介は後半32分から出場



クラブユース選手権をふり返って

主将 石沢哲也

終わってしばらくたったなら、全国3位というのは良い成績だと思えるようになりましたが、準決勝で負けたときは悔しかったです。

予選リーグで負けた高田FC戦は、相手がJリーグの下部組織じゃないから軽く見たということではありませんが、その前に予選通過が決まっていた、みんなの雰囲気も少し違っていました。1位通過を狙おうと話していたんですが、最初にPKで1点を取られてそのまま引きずってしまいました。相手は基礎がしっかりしていて、一対一でボールを取られない、うまいチームでした。

1回戦の広島戦は、先制したのに後半自分がPKを取られて同点にされてしまい、もう辞めたい感じでした(苦笑)。延長になって(葦本)啓太がシュートを決めたときは、あの大会で一番うれしかった瞬間でした。その後は、チームを落ち着かせるようにしました。

2回戦の京都戦は、前半はほとんどボールに触っていないですが、じれずに、相手が後ろで回しながらときどき入れてくるロングボールに注意していました。こちらが攻めにいっても、押し上げが追いつかず前線が孤立してしまい、人数をかけてつぶされてしまう感じだったので、後半は相手の守備的MFにボールが入ったときに早めにプレッシャーをかけて、そこでボールを奪うようにしました。それがうまくいって相手のファウルを誘いました。自分がPKを蹴ったんですが、蹴る前に(池西)希が「去年、ここで(高橋)峻希がPK外してるから」とかプレッシャーかけて来るんですよ(笑)。京都は1点取られてもまだ後ろで回ってくるし、いろんなタイプのチームがいて勉強になりました。

準決勝は、最初から集中していいこうと言っていたんですが、1点取られて気落ちしてしまいました。ハーフタイムにノブさん(池田コーチ)に湯を入れられて、後半は変わったと思います。1点取れば勢いはこっちに来ると思っていたので、(矢島)倫太郎が取ったときはいけると思ったんですが、勝てなかったのは決定力の無さだと思います。

グッチ(原口)は高田FC戦でケガして、1、2回戦は出られなかったんですが、あいつ試合に出るために宿舎でずっとケアしてたんですよ。だから準決勝に間に合ってた良かったです。

みんな、次は高円宮杯だ、と切り替えは早かったです。でも今は気が緩んでいる時期なんで、県大会から確実に勝っていけるように、締めたいと思います。(9月5日)

夏休みにステップアップ! 海外遠征・留学

U-16(高1・中3)

韓国遠征でハードな試合こなす

7月21日から25日まで、U-15選手18人(高1=9人・中3=9人)が、韓国の大宇研修院に遠征し、現地の学校チームと練習試合を行った。移動日を除き3日連続で計4試合をこなすハードな日程だったが、2勝2分けと試合結果はまずまず。選手個人にとっても、生活面を含め大きな刺激となった。

体力面での自信になった

永田拓也(高1)

全部にフル出場して、疲れたときでもミスをしなやか、体力的にきついときの精神面で一皮むけたかな、と思います。韓国の選手は大きくてガツガツ来て、ボールを離してしまうと取られてしまうので、きちんと自分の足元でコントロールしなくてはなりません。そういう実戦で勉強になりました。

パスの精度とヘディングを

長谷川 凌(中3)

韓国の選手は大きくて体が強くて早い、そういうイメージが最初からあったんですが、その通りフィジカルの強さを感じました。今回はユースの人たちと一緒に、引っ張ってくれたので自分も良いプレーができたかな、と思います。試合中、指示も出てくれるしやりやすかったです。自分に必要だと思ったのは、パスの精度とヘディングで絶対負けない強さです。

11-1 豊生中

G: 阪野3、原口2、真本2、永田、利根川、加瀬、池西

2-2 泰成高

G: 原口、岸

3-0 川産高

G: 加瀬、阪野、池西

2-2 在銘高

G: O.G. 利根川

4試合負けなしは良かった

ユースコーチ 堀 孝史

4試合やって2勝2分けだったのですが、即席チームだったので、チームとしてどうこうよりも個々の選手がどれだけのことができるのか、またユースの選手とジュニアユースの選手がクラブとして一緒にできるのか、というところを見ました。相手は高校のチームもあったし、その年代の代表選手もいた中で、4試合負けなかったというのは良かったと思います。1日2試合合、ないしは1試合プラス練習と、かなりハードにやりました。

U-14(中2・中1)

バイエルン・ミュンヘン(ドイツ)遠征 2つの大会で優勝!

8月22日から30日まで、浦和レッズが昨年からパートナーシップを結んでいるドイツのFCバイエルン・ミュンヘンにU-14選手16人(中2=15人・中1=1人)が遠征し、U-15の大会(ライナー・ヒンターマイアークップ)U-14の大会(ユニオーレンカップ)の両方で優勝した。またU-15大会のMVPに矢島が選ばれた。



宿舎の前で全員

ライナー・ヒンターマイアークップ(U-15)

1-0 1FCニュルンベルク

G: 矢島

0-0 グロイター・フールト

2-0 1860ミュンヘン

G: 矢島、磯部

2-0 FCバイエルン・ミュンヘン

G: 磯部2

1-0 VfBシュツットガルト

G: 鈴木

*6チームによるリーグ戦



U-15大会MVPのトロフィーを手にする矢島倫太郎

ユニオーレンカップ(U-14)

予選リーグ

0-1 VfBシュツットガルト

4-0 AKAフォア アールベルク

G: 磯部、矢島2、町山

3-0 VfBフリードリッヒスハーフェン

G: 清水2、広瀬

1-0 FCバイエルン・ミュンヘン

G: 磯部

1-0 SCフライブルク

G: 広瀬

準決勝

1-0 FCバイエルン・ミュンヘン

G: 磯部

決勝

2-1 VfBシュツットガルト

G: 矢島、磯部



食事中。ご飯がないので厳しかった選手も

大きく強い相手に勝てた自信

磯部裕基(中2)

優勝が2回できて良かったです。相手は体が大きくて強かったんですが、気持ちでは勝っていたと思います。前から早いプレッシャーをかけてボールを取りにいけたところなどは今後に向けて自信になりました。今回は最上級生だったので、自分たちがチームをまとめていなくてはと意識していました。

相手を見習うべきところも

岡本拓也(中2)

相手は日本の選手より技術がしっかりしていて、びっくりしました。優勝できたのは、勝ちたいという気持ちが上だったからかな、と思います。自分のプレーでは、しっかりカバーリングをし、ヘディングでも負けなかったことが良かったと思っています。でも、単純なパスミスもあったので、そこはドイツの選手たちを見習いたいと思います。

守備が非常にうまくいった

ジュニアユースコーチ 池田伸康

技術的にはレベルの差がありましたが、こちらは勝ちたい気持ちが上回っていたと思います。2年生は、上の選手がいなくて自分たちで何とかしなきゃいけないという気持ちになったと思います。また、いろいろなポジションをやらせてみて新しい発見がありました。

今回の遠征では、しっかり守ってから攻めようという課題を挙げていて、守備が非常にうまくできたと思います。内容的には良かったです。優勝という結果が出たのが良かったと思います。

U-17(林・宮川)

シュツットガルト(ドイツ)留学

8月8日から29日まで、ユースの高2選手、林容平と宮川貴司が、ブッフバルト監督の古巣でもあるドイツ・VfBシュツットガルトに留学した。日程の前半は澤村公康GKコーチが同行したが、後半から帰国までは2人だけの生活。サッカーの技術のみならず、精神面でも鍛えられた3週間となった。

ヘディング強くならないと

林 容平(高2)

海外には何度か行ったことがあったんですが、個人で行くのは初めてだったので、少し不安もありました。ドイツのサッカーを見ていると、フィジカルの部分がすごく目立っていて、それは自分に足りないところだと思っていたので吸収したかったです。DFから中盤をとばしてFWにいっくボールが日本よりずいぶん多くて、自分は足元でもらう方が好きなんですけど、ヘディングが強くならないとどうにもならない感じでした。今後、生かしていきたいです。

シュートを磨いていきたい

宮川貴司(高2)

行けると思っていなかったのが、うれしかったです。ドイツに行ったら、自分の得意なドリブルでどんどんチャレンジしていきたいと思っていました。向こうの人は体が大きくて、フィジカルが強いな、と感じましたが、逆に切り返しとかが苦手なので、ドリブルで突いていけました。行ってしばらくは時差できつかったんですが、それが過ぎると環境がとても良くて暮らしやすかったです。こっちに帰ってからシュートをどんどん磨いていけたらいいな、と思います。

国体少年の部埼玉代表、本大会へ

第61回国民体育大会のサッカー競技少年の部関東ブロック予選が8月15、16日に栃木県で行われ、埼玉代表は茨城、東京代表を破って、10月1日から兵庫県で行われる本大会出場を決めた。同競技は今年からU-16の選手が出場する規定となり、埼玉代表は、浦和レッズユースの高校1年生選手が大半を占めている。



右サイドバックを務めた菅井順平(8.15/茨城戦)



値千金の同点ゴールを決めた田仲智紀(8.15/茨城戦)

勝利を喜ぶGK柴田大地、左は池田涼司(8.15/茨城戦)



後半ロスタイム、武富尚紀が決勝ゴールを挙げる(8.15/茨城戦)

埼玉の代表として頑張る

菅井順平(高1)

茨城戦は苦しい試合になりましたが、そこで勝てた勢いで次の東京戦も勝ちました。今年は国体という目標を意識してきたので、厳しい試合をモノにして本大会に出られたのはうれしいです。レッズの試合も大事ですが、国体は県のトレセンに来ている30人くらいの中から選ばれて出ているので、出ていない人たちのためにも埼玉の代表として頑張ろうという気持ちになります。やるからには絶対に優勝してきたいと思います。

チームが一回り大きくなった

田仲智紀(高1)

茨城戦は苦しい思いをして勝った分、喜びも大きいし、チームが一回り大きくなって良かったと思います。うちのチームはボールを回して攻めるから、ふだんなら相手は後半きついと思うんですが、35分ハーフだと相手も最後まで粘るので、ちょっとやりにくいです。国体では、選ばれなかった選手のためにも優勝を目指して、1試合でも多くやりたいです。相手には知っている選手も多いので楽しみです。

課題を克服して毎試合得点を

武富尚紀(高1)

関東予選2試合では自分のところにいいボールが来て、たくさん点を取れて良かったです。国体というのは埼玉県を背負ってる感じはしますが、意気込みとしてはいつもとあまり変わらないです。これから、遠目からのシュートとか、こぼれ球への反応とか、一対一の強さとか、自分の課題を少しでも克服して、本大会に備えたいと思います。本大会では毎試合1点取ることが自分の目標です。

全国の舞台が大きな経験に

.....国体少年の部埼玉・監督 村松 浩
(レッズ・アカデミーセンター長)

国体の代表チームは、県のU-16トレセンの中から選ばれたチームで、特に意識してレッズの選手だけをピックアップした訳ではないですが、結果としてレッズ一色ようになってしまっているので、負けてしまったら他のチームの選手たちに申し訳ないと思っていました。しかしチームワークという点では、去年のレッズジュニアユースのチームが中心になっている訳で、複数のチームから集まった他の県を上回っていると思います。選手たちにとっては全国大会という舞台を与えられて、非常に大きな経験になると思います



試合結果

第1戦

埼玉代表 2 - 1 茨城代表
G: 田仲、武富

第2戦

埼玉代表 4 - 2 東京代表
G: 武富2、山田、永田

宮城スタジアムカップ 9位

レッズユースは8月20日から23日まで、第3回宮城スタジアムカップに参加し、16チーム中9位の成績を収めた。

チームのために頑張れた

高垣大樹(高2)

試合には全部出ました。守備的MFと左サイドバックをやりましたが、どこで出てもしっかり走り回ってチームのためにやれたと思います。滝川二高との試合では、相手の球際の強さと動き出しの早さを感じました。横浜ユースとの試合では、最初からみんなで強いこうというのが、うまくいきました。これからはチームを盛り上げて、チームのために頑張ろうと思います。

試合結果

予選リーグ

0 - 2 青森山田高
1 - 0 宮城県工業高
G: 矢部
0 - 4 滝川二高

3位ブロック戦

5 - 1 横浜Mユース
G: 丸山、山崎、矢部、永田、田仲

9位決定戦

4 - 3 前橋育英高
G: 丸山、岸、田仲、大野

まずは戦う姿勢を持とう

.....ユース・監督 広瀬 治

まだ新チームに移行した訳ではないですが、実質的に1、2年生中心のチームで臨みました。まだ2年生に、自分たちが引っ張っていくという自覚が見られなかったのは残念ですが、この大会を通じてそういう気持ちを感じてくれたらいいと思います。

1試合通して戦えた試合もあれば、そうでない試合もありました。どんな相手に対してもまずは戦う気持ちを持ってから、技術的、戦術的なものに入っていったということを理解してほしいと思います。試合が進むごとに、そういう姿勢が見られたことは良かったと思います。

これから3年生がだんだん少なくなって、新チームになっていく訳ですが、その中で自分が何のためにレッズにいるのかをしっかりと考えてほしいです。ただのクラブチームではなく、「浦和レッズ」というトップがあり、サテライトがあって、その下にユースがあるんです。

初めは試合に出られなくても、出られるようになるために何をやるのか。また試合に出ている選手は自分のことだけでなく、仲間と協力してプレーする中で、自分の個性を發揮するんだということです。これから精神的にも強くなってほしいです。